

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2007～2011

課題番号：19530432

研究課題名（和文） 固有な<生>を支える市民活動と地域形成に関する実証的研究

研究課題名（英文） Empirical Study on Civil Activities for Supporting One's Unique *Life* and Constructing Community

研究代表者

清水 亮（SHIMIZU RYO）

東京大学・大学院新領域創成科学研究科・准教授

研究者番号：40313788

研究代表者の専門分野：社会学

科研費の分科・細目：社会学・社会学

キーワード：地震・ボランティア・市民活動・支援

### 1. 研究計画の概要

本研究では、震災以降の神戸でのボランティア活動を現場で調査する。ここではボランティアの活動を社会学的な立場から記録を続けながら、単なる人・物・資金の組織経営論ではない、活動実践とそれをとりまく環境的条件から導かれるボランティア論(活動経営論)を立ち上げるのが目標となる。新自由主義的政策や政府の財政難などにより、ここ数年は要支援者のおかれた状況が厳しくなっており、支援ボランティアもこれに伴って組織変容等が迫られるなどの新たなフェーズに突入している。このような制度や構造の壁に遭遇したボランティアの活動状況を捉えるのも目標の一つである。また、地域社会研究にボランティア理論を位置づけることも試みたい。

### 2. 研究の進捗状況

本研究課題では阪神淡路大震災以降に活動が立ち上げられた3つのボランティア団体を対象にその活動過程をヒアリングにて詳細に調査し、記録する作業を進めてきた。この作業からこれまで得られた知見は下記の通りである。

#### (1) 拓人こうべ

被災当初から障害者の支援活動を開始し、やがて障害者のケア事業に参入した。被災障害者との「顔の見える関係」を重視し、障害者の権利擁護運動も展開してきており、事業体と運動体との両側面を有していた。障害者自立支援法が導入されて事業部門の運営が厳しくなると、別団体に事業部門を移管し、新たな課題への取り組みを開始した。

#### (2) 被災地 NGO 協働センター

復旧段階において仮設住宅で活動する諸団体を繋ぐ連絡会を母体として発足し、一人一人を大切に活動を展開させていった。5年、10年という区切りには市民社会の創造をテーマに震災の検証作業を行い、こうした活動から災害救援のボランティア活動のあり方を被災地から発信していった。一方で国際的な災害救援組織 CODE を立ち上げ、救援の実践活動も実施している。

#### (3) 阪神高齢者障害者支援ネットワーク

被災直後の高齢者の緊急避難から活動を始め、仮設段階では孤独死問題などに取り組み、復興住宅に移行してからも高齢者の生きがいづくりに奔走している。支援対象者の生活の総体に向き合う姿勢を貫き、関係づくりの重要性から高齢者を地域で見守るしくみづくりに活動を展開させている。

3 団体ともそれぞれ別様の組織展開を示しているが、その時々を対象者ニーズに合わせた活動実態、社会情勢に即した組織改編を行いつつ、最終的に現在まで活動を継続させている点に注目して分析を続けるべきであろう。

### 3. 現在までの達成度

おおむね順調に進展している。  
理由：本研究の一つの主要目的は、震災発生の頃から10年以上を経てなお活動を継続するボランティアを対象に、その社会学的記録を続けることであったが、これは定期的な現地調査が継続できていることからおおむね進展しているといえる。新たな活動経営論の構築は必ずしも十分な進展とはいえないものの、この3年の研究で論点は明らかにな

りつつある。最終年度でどこまでまとめられるかは不明であるが、引き続き検討を重ねる予定である。

#### 4. 今後の研究の推進方策

最終年度においても、これまで15年間継続してきた現地でのヒアリングを同様に実施する。同時に蓄積してきたデータの整理、まとめを行う。作業としては、他の諸組織との比較、既存の組織論とのつき合わせなども可能な限り検討したい。

一つ憂慮したいのは、調査対象者の一人が健康上の理由であまり活動ができなくなっており、この点は議論の具体化に一定の制約が生じている。こればかりは如何ともしがたいので、出来る範囲の議論にとどまる可能性がある。

#### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計4件)

三井さよ,2010,「生活をまわる / 生活を拡げる 知的障害当事者の自立生活への支援から」,『福祉社会学論集』No.7,pp.118-139,査読有

三井さよ,2008,「『思い』を介した協働特養Aにおける介護職と看護職のかかわりを通して」,『ソシオロジ』162:91-108,査読有

佐藤恵,2008,「障害者自立支援法の下での『支え合い』」,『福祉社会学研究』Vol.5,pp.104-124,査読有

[学会発表](計3件)

佐藤恵,「犯罪被害者支援の市民活動」,第36回日本犯罪社会学学会大会,2009年10月17日,北九州市立大学

[図書](計2件)

崎山治男・伊藤智樹・佐藤恵・三井さよ編著,2008,『支援の社会学 現場に向き合う思考』,青弓社,236頁(佐藤恵,「起点としての『聴く』こと 犯罪被害者のセルフヘルプ・グループにおけるある回復の形」,pp.40-61,三井さよ,「『人として』の支援 阪神・淡路大震災において「孤独」な生を支える」pp.89-113)

似田貝香門編,2008,『自立支援の実践知 阪神・淡路大震災と共同・市民社会』,東信堂,343頁(三井さよ,「被災者の固有性の尊重とボランティアの問い直し 阪神高齢者・障害者支援ネットワークの特徴」,pp.77-130,清水亮,「居住の論理に基づくコミュニティ形成 野田北部地区の復興まちづくり」,pp.157-204,佐藤恵,「自立支援のリアリティ 被災地障害者センタ

ーの実践から」,pp.205-248)